

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

【圏域の人口等】令和2年3月1日現在

圏域人口：73,018人

高齢者人口：17,112人

高齢化率：23.44%

【圏域の特徴】

豊中市で高齢者人口が最も多い圏域です。一部若年層の多い地域もあり、地域によって課題に差が見られています。公共交通機関・医療機関・商業施設など生活に必要な資源が豊富な地域と乏しい地域の差が大きいのが特徴です。

北部では坂が非常に多い住宅地に高齢者のみでの生活世帯が増えています。歩行状態が悪くなると通院や買い物などへの外出が困難になるケースが多くみられます。閉じこもりの生活になりやすく、運動機能の低下の大きな要因にもなると考えられます。

センターの取り組み方針や特徴

【センターの運営方針】

当包括での方針である「連携」を基本とし、高齢者ご本人、ご家族、地域住民、介護従事者、医療関係者などのネットワーク構築に努めています。総合相談を基本に高齢部会、地域教室、ケアマネ勉強会など情報提供や情報発信をする場を設け、地域での課題を発見し、地域資源づくりができるような連携を意識して活動していきます。

「住み慣れた地域で、自分らしく生きがいと誇りをもって、健やかに安心して暮らせるまち」づくりをめざして支援していきます。

【特に力を入れて活動している点】

- ① 迅速かつ的確で丁寧な相談対応
- ② 地域ケア個別会議の開催
- ③ インフォーマルサービスなど地域資源の周知

【活動の中での課題やその解決策】

- ① 課題：経験の長い職員の退職など欠員での体制と新入職員の入職で適切な相談対応が困難となり、対応能力にも差が生じることが予測されました。

解決策：包括内で相談事例を共有し、3職種で役割分担、連携して相談対応。経験の浅い職員に対して丁寧な指導、支援、対応の振り返りを行い、

スキルアップと包括全体の相談業務の資質向上を図りました。
職員の欠員が続く中、困難な相談に対してもチームワークで互いの
専門職を活かして対応を実施しました。

- ② 課題：職員の欠員が続く中、地域ケア個別会議開催に人員を揃えることが
困難となることが想定されました。また、地域ケア個別会議につい
て経験のある包括職員が少なく、他の業務を抱えながらの司会・フ
ァシリテーター役を担うことの重責が見られました。

解決策：豊中市の指導、共助のもと、助言者の準備などに支援して頂き地域
ケア個別会議の開催、運営ができました。司会・ファシリテーター
の研修や地域ケア個別会議への参加、経験した職員からのノウハウ
の伝達を通して、司会・ファシリテーターの役割を担うことができま
した。居宅ケアマネジャーにも地域ケア個別会議の定期開催がある
程度周知されたこともあり、事例提供について協力を得ることがで
きています。

- ③ 課題：圏域内のインフォーマルサービスなどの地域資源の収集について、
校区をこえてどのように情報提供をしていけばいいかを検討しまし
た。

解決策：圏域 CSW と相談、共助のもと、各校区福祉委員から情報提供をい
ただき、高齢部会を圏域の全校区対象で開催し、居宅のケアマネジ
ャーへの情報提供を行いました。

総評

【特徴的な取り組み内容】

地域との繋がり・連携に重点を置いた支援が行われています。地域の集いの
場の継続・新設や、地域住民・介護事業所・医療機関などとの顔と顔が見える関
係づくり、地域で地域を支えていく関係づくりが進められています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

令和2年度から新法人が運営することとなり、法人の持つ経験やノウハウを
活かした取り組みが期待されます。認知症サポーター養成講座などをさらに積
極的に実施することで若年層や地域の社会資源なども含む地域住民との関係づ
くりを推進し、包括の地域での認知度を高めることが望まれます。